

# オープンキャンパス参加者調査

—アンケート報告書—



2010年8月

神戸大学発達科学部  
オープンキャンパス 2010  
実行委員会

神戸大学発達科学部では、平成 22 年度オープンキャンパスを 2010 年 8 月 10 日(火)、11 日(水)の両日に開催いたしました。お蔭様で大きなトラブルもなく、2 日間の開催を無事終えることができました。また、例年になく酷暑にもかかわらず、多数の高校生や保護者の皆様にご来学いただきましたこと、心より感謝しております。

私ども実行委員会は 2010 年 3 月末に結成され、8 月の開催まで約 5 ヶ月という短い準備期間でありましたので、かなりあわただしく準備を進めざるを得なかったという状況にありました。行き届かない点も多々あったことと存じますが、それは反省点として次年度に引継ぎ、よりご満足いただけるオープンキャンパスの開催に役立てていただければと存じます。

今年度のオープンキャンパス参加者 1350 名からご回答いただいたアンケートを分析いたしました。今年度の参加者による評価・感想をご一読いただき、ご高評賜れば幸甚に存じます。

開催にあたりましては、人間発達環境学研究科の教職員ならびに在学生の皆様にご協力をお願いしたことに、心よりお礼申し上げます。

平成 22 年度オープンキャンパス実行委員会

委員長 河辺 章子

委員 青木 茂樹

同 田村 文生

同 長ヶ原 誠

同 目黒 強

## 目 次

はじめに	2
調査の概要	3
結果	
1. サンプルの属性	5
2. オープンキャンパスに対する評価	11
3. オープンキャンパスの企画内容に対する評価	13
4. 学生パンフレットに対する評価	19
5. 発達科学部に対する入学意志	21
6. その他	23
7. まとめ	25
Appendix	(非公開)

はじめに

平成 22 年度神戸大学発達科学部オープンキャンパスは、8 月 10 日(火)及び 11 日(水)の 2 日間にわたって開催された。

両日の参加者数, 同伴者数, およびそれぞれの総数, 各コースの催しへの参加者数は以下のとおりである。

表 A 平成 22 年度発達科学部オープンキャンパス参加者数

		10 日	11 日	計
受付確認数	登録者	1121	1140	2261
	同伴者	294	338	632
計		1415	1478	2893

(参加証シール数による)

表 B コース別参加人数

学科	コース	10 日		11 日	
		1 回目	2 回目	1 回目	2 回目
人間形成	心理発達論	300	60	340	80
	子ども発達論	155	52	113	68
	教育科学論	46	30	60	25
	学校教育論	136	76	120	48
人間行動*	健康発達論	115	39	112	33
	行動発達論				
	身体行動論				
人間表現	表現文化論	20	21	57	28
	表現創造論 <sup>1</sup>	135	128	113	149
	臨床・感性表現論	54	16	45	21
人間環境	自然環境論	39	12	81	38
	数理情報環境論	28	37	33	45
	生活環境論	38	18	31	17
	社会環境論	58	18	63	25
学部横断	発達支援論	3	5	1	5
	サイエンスカフェ		5		9
計		1127	517	1169	593

<sup>1</sup> 学生による演奏会への参加数を含む

# 調査の概要

## 1. 調査の目的

本研究は、2010年8月10日、11日に行われた神戸大学発達科学部のオープンキャンパスにおける参加者の属性とオープンキャンパスに対する量的ならびに質的評価を明らかにすることを目的としている。具体的には、オープンキャンパスの参加者の属性、オープンキャンパスに対する評価、意見や感想、発達科学部に対する興味などを把握し、比較分析を行う。

## 2. 調査内容

調査項目を表1に示した。

- 1) 属性： 性別，年齢，学年，高校所在地，オープンキャンパスを知るきっかけ，  
同伴者，参加したコース・企画
- 2) オープンキャンパスに対する評価： 開催時期，開催時間，開催回数
- 3) オープンキャンパスの企画内容に対する評価： 配布資料，企画内容，総合評価
- 4) オープンキャンパスの開催時期・時間・回数
- 5) オープンキャンパスの企画内容： 配布資料，企画内容，総合評価
- 6) 学生企画のパンフレット「発達・発掘・Books」
- 7) オープンキャンパスに対する意見，希望，及び感想： 自由記述
- 8) その他（知りたいこと）： 教員や学生の研究，カリキュラム，地域貢献情報，  
入試情報，学生のキャンパスライフ，その他

## 3. 調査対象

2010年度神戸大学発達科学部オープンキャンパス参加者

## 4. 調査方法

2010年8月10日(火)，11日(水)に行われた神戸大学発達科学部のオープンキャンパスで調査票を配布し，帰りに数箇所に設置した回収箱に入れてもらう配票回収法により来場者調査を行った。

## 5. サンプル数回収数

回収数:1351票

## 6. 分析方法

データの分析は，単純集計とクロス集計，および  $\chi^2$  検定を用いた<sup>2</sup>。

---

<sup>2</sup> 本報告書では，検定結果の詳細は掲載しないこととした。詳細が必要な場合は，平成22年度オープンキャンパス実行委員会にお問い合わせください。

表1 調査項目

要因群	項目	カテゴリー
属 性	回答者の属性	1. 性別
		2. 年齢
		3. 学年
		4. 高校所在地
		5. オープンキャンパスを知るきっかけ
		6. 同伴者
		7. 参加コース・企画
オープンキャンパス に対する評価	開催時期	1. 適当である 2. どちらともいえない 3. 再考してほしい 再考するなら (1月～12月)
	開催時間	1. 適当である 2. どちらともいえない 3. 再考してほしい 再考するなら (午前・午後・終日)
	開催回数	1. 適当である 2. どちらともいえない 3. 再考してほしい 再考するなら (回数/日)
	配布資料	1. 満足した 2. まあ満足した 3. あまり満足し なかった 4. 満足しなかった
	企画内容	1. 満足した 2. まあ満足した 3. あまり満足し なかった 4. 満足しなかった
	総合評価	1. 満足した 2. まあ満足した 3. あまり満足し なかった 4. 満足しなかった
オープンキャンパス の企画内容に対 する評価	学生企画 (発達・発掘・Books)	1. おもしろかった 2. 参考になった 3. あまり 必要ない 4. わからない
	発達科学部に 対する入学意志	1. ますます思った 2. まあ思った 3. あまり思 わない 4. よく分からない
	オープンキャンパス に対する意見・ 希望・感想	自由記述法
発達科学部に 対する興味・HPに 関する希望	発達科学部に対する 興味・希望	1. 教員や学生の研究
		2. カリキュラム
		3. 地域貢献情報
		4. 入試情報
		5. 学生のキャンパスライフ
		6. その他
		7. わからない/特になし 自由記述

# 調査結果

## 1. サンプルの属性

### 1) 性別

サンプルの性別に関して全体にみると、男性が 27.2%(366 名)、女性が 72.8% (981 名)と女性が圧倒的に多い(図1).

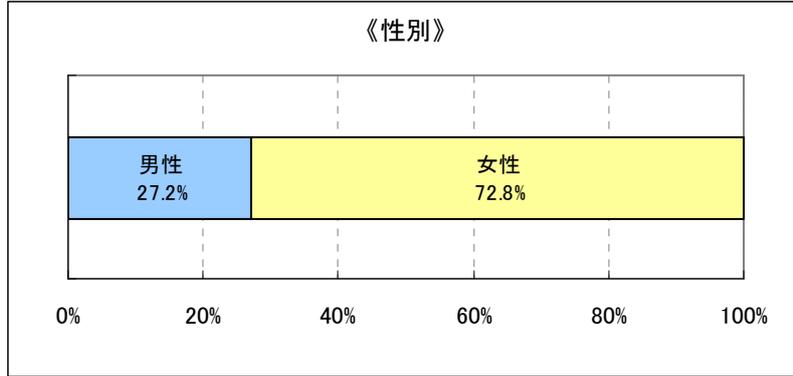


図 1. 性別 (n=1,347)

### 2) 年齢構成

表2に回答者の年齢構成を示した. 15歳が 10.4%(139名), 16歳が 35.6%(475名), 17歳が 35.1%(469名), 18歳が 15.4%(206名)と, 参加者はほぼ高校生であることを示している.

表2 年齢構成 (n=1,335)

年齢	人数
15歳未満	4
15	139
16	475
17	469
18	206
19	23
20歳以上	18

### 3) 学年

学年に関して全体的にみると、高校 2年生が 49.6%(668名)、高校 3年生が 25.9%(348名)、高校 1年生は 19.6%(264名)で、2年生の参加が中心であることがわかる(図2)<sup>3</sup>.

<sup>3</sup> 図2以降、全体をみた図では、度数をプロットしたグラフとパーセント表示のグラフの二つを掲載し、2つを合わせてひとつの図として扱っている。

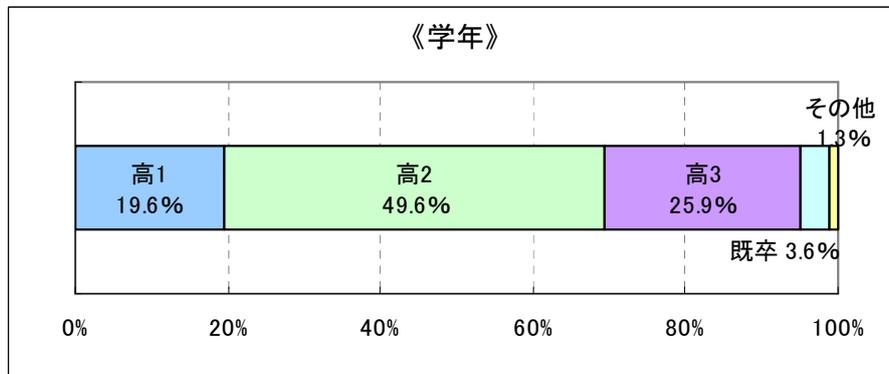
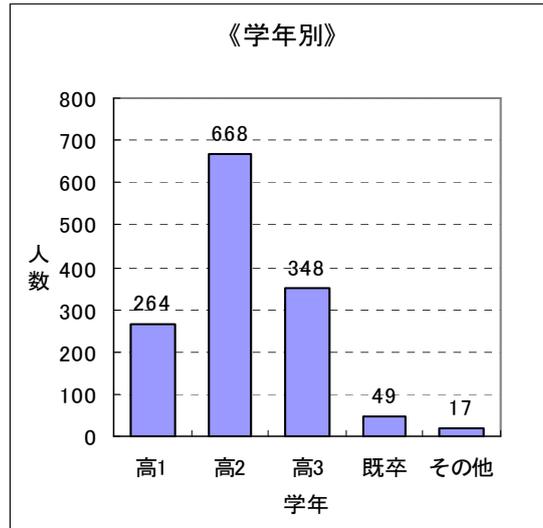


図 2 学年 (n=1,346)

#### 4) 高校所在地

高校所在地を全体的にみると、神戸市内が 14.9% (199 名)、兵庫県内が 22.6% (302 名)、大阪府が 25.5% (341 名) で兵庫県と大阪府が約 6 割を占めている。次いで、高い割合を示したのは順に、奈良県が 7.5% (100 名)、京都府が 6.4% (85 名)、滋賀県が 2.8% (38 名) であり、近畿地方だけで 82.5% の参加者数となった。しかし、中国・四国地方、九州・沖縄地方や北海道・東北、関東地方からの参加者もあり、あわせて 37 都道府県からの参加があった。(表 3)。

表 3 高校所在地

地方	市・県	人数	%
近畿	神戸市内	199	14.9
	兵庫県内	302	22.6
	大阪府	341	25.5
	京都府	85	6.4
	奈良県	100	7.5
	滋賀県	38	2.8
	和歌山県	24	1.8
	三重県	13	1.0
中国	岡山県	27	2.0
	広島県	25	1.9
	山口県	5	0.4
	鳥取県	8	0.6
	島根県	6	0.4
四国	香川県	12	0.9
	愛媛県	15	1.1
	徳島県	19	1.4
	高知県	7	0.5
北陸	福井県	24	1.8
	石川県	8	0.6
	富山県	9	0.7
東海	岐阜県	8	0.6
	愛知県	18	1.3
	静岡県	10	0.7
九州・沖縄	福岡県	6	0.4
	大分県	2	0.1
	宮崎県	3	0.2
	熊本県	2	0.1
	鹿児島県	1	0.1
	沖縄県	2	0.1
関東	東京都	2	0.1
	千葉県	2	0.1
	茨城県	1	0.1
	神奈川県	2	0.1
甲信越	長野県	2	0.1
	山梨県	3	0.2
東北・北海道	宮城県	2	0.1
	北海道	4	0.3
	合計	1,337	100.0

### 5) オープンキャンパスを知るきっかけ

オープンキャンパスを知るきっかけを全体的にみると、発達科学部のホームページが 60.1% (800 名)と最も多く、次いで、学校の先生が 16.6% (221 名)、友人が 15.6% (208 名)となった (図 3)。多数出版されている受験雑誌はほとんど利用されておらず、1.1% (15 名)であった。

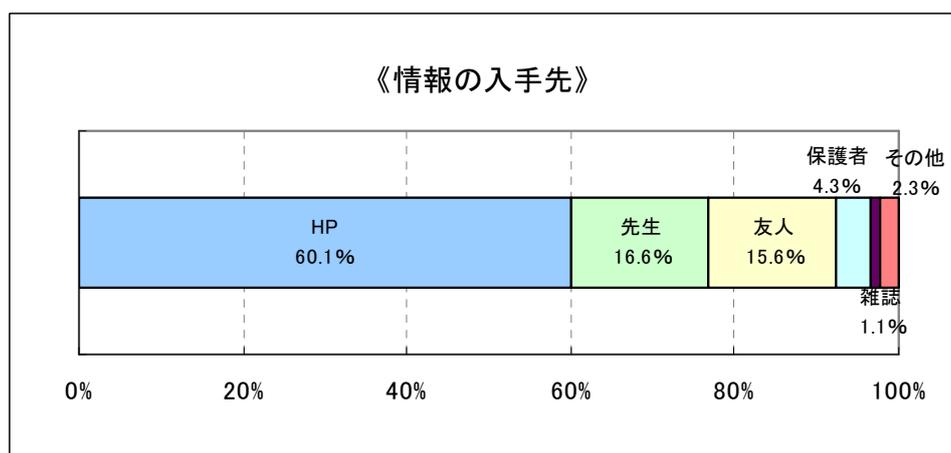
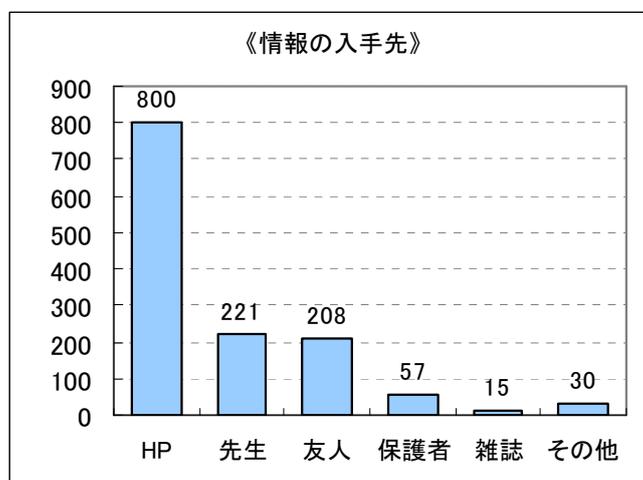


図 3 オープンキャンパスを知るきっかけ (n=1,331)

### 6) 同伴者

同伴者に関して全体的にみると、友人が 48.9% (651 名)と約半数を占めて最も多く、次いで、保護者が 25.2% (336 名)、一人が 23.7% (316 名)となった。(図 4)。

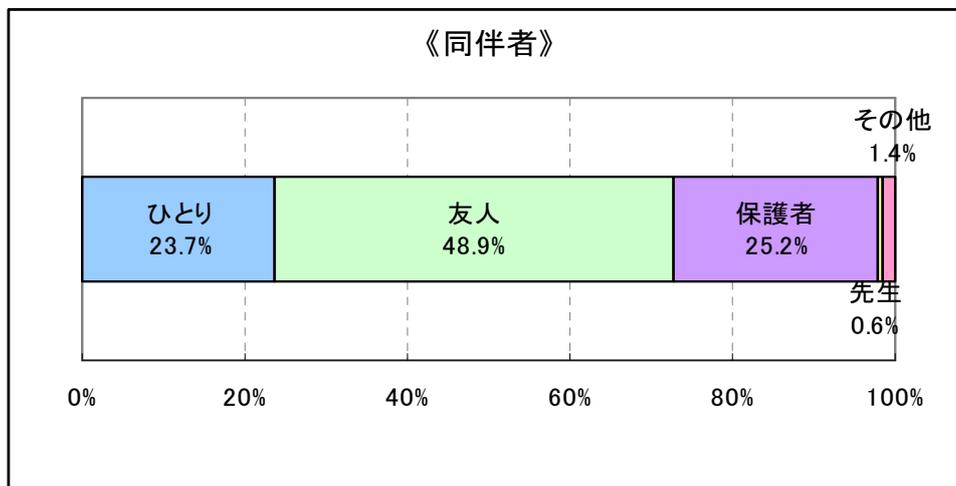
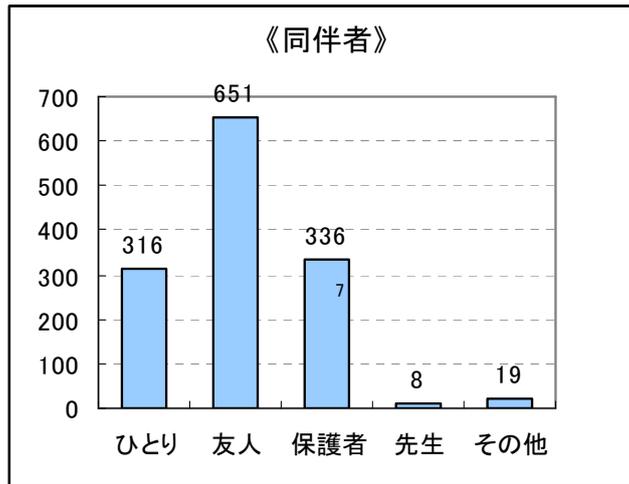
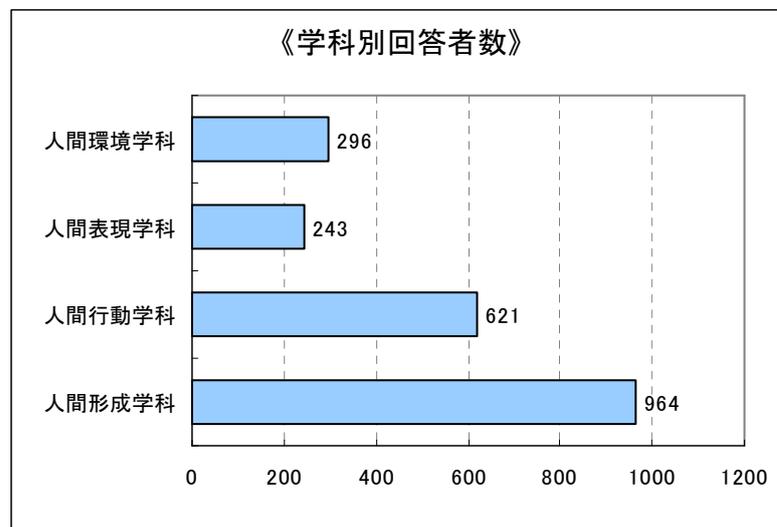


図4 同伴者 (n=1,332)

### 7) 参加した学科 (複数回答)

参加した学科は、人間形成学科が 45.3% (n=964) と最も多く、次いで、人間行動学科が 29.2% (n=621)、人間環境学科が 13.9% (n=296)、人間表現学科が 11.4% (n=243) となった(図 5)。



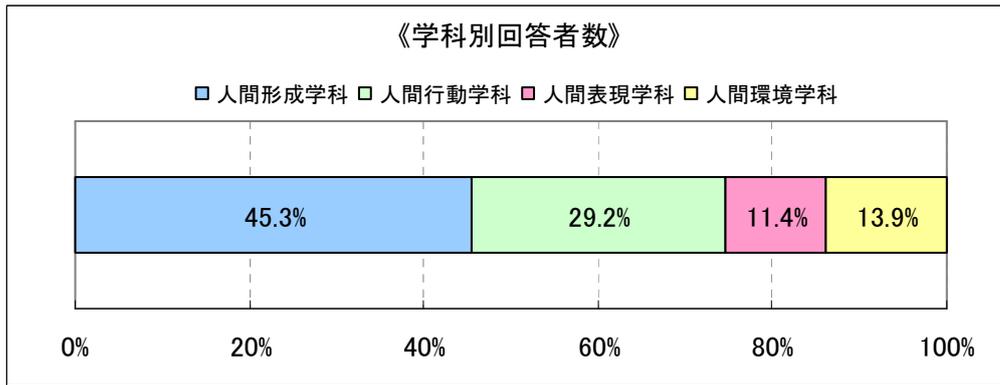


図5 参加した学科 (n=2128)

### 8) 参加したコース企画 (複数回答)

参加したコース企画を全体的にみると(図6), 心理発達論コースが 25.4%(339 名), 学校教育論コースが 20.3%(270 名), 子ども発達論コースが 15.8%(210 名)と高い参加率を示した(表4).

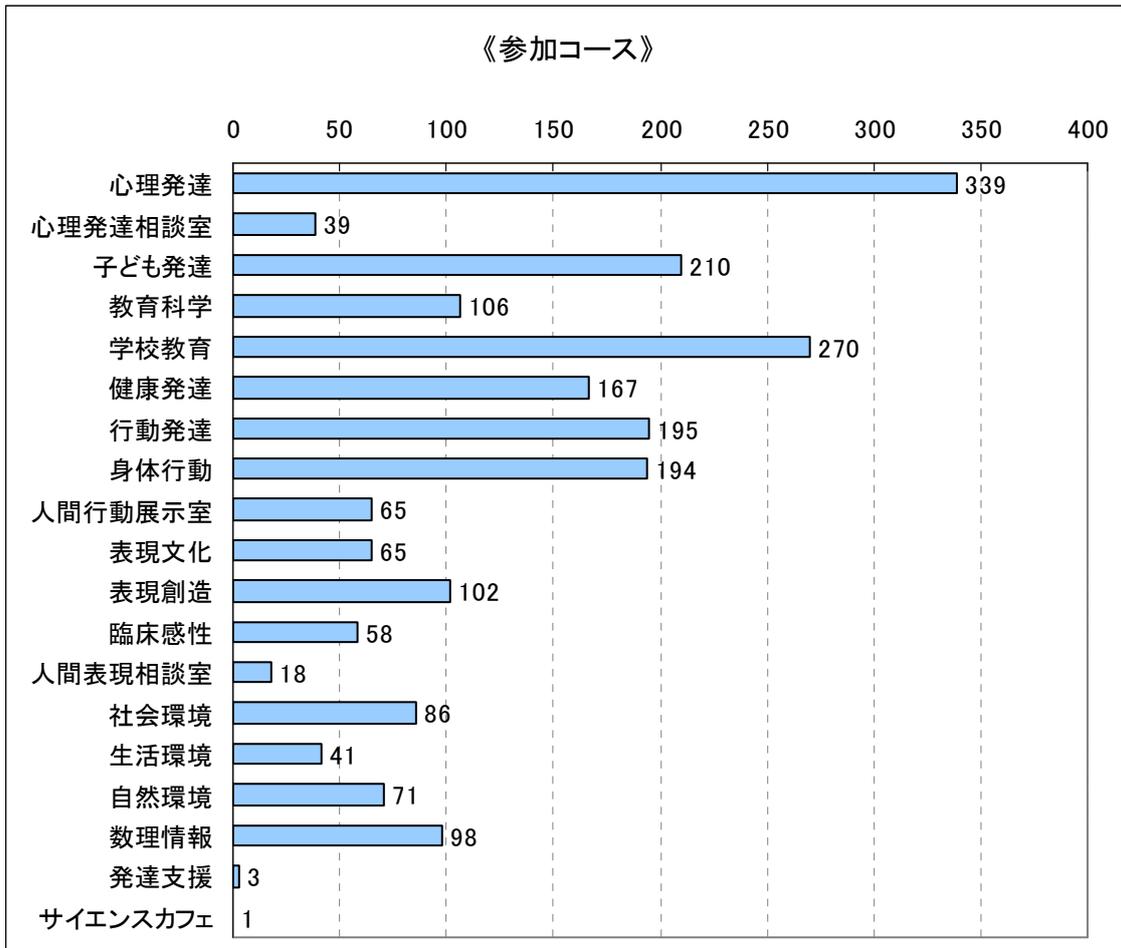


図6 参加したコース企画(複数回答)

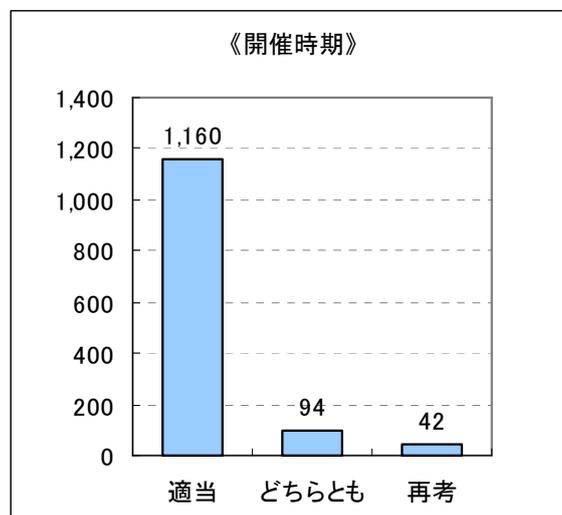
表 4 参加したコース企画(複数回答)

学科	コース	応答数	パーセント	ケースのパーセント
人間形成学科	心理発達	339	15.9%	25.4%
	心理発達相談室	39	1.8%	2.9%
	子ども発達	210	9.9%	15.8%
	教育科学	106	5.0%	8.0%
	学校教育	270	12.7%	20.3%
人間行動学科	健康発達	167	7.8%	12.5%
	行動発達	195	9.2%	14.6%
	身体行動	194	9.1%	14.6%
	人間行動展示室	65	3.1%	4.9%
人間表現学科	表現文化	65	3.1%	4.9%
	表現創造	102	4.8%	7.7%
	臨床感性	58	2.7%	4.4%
	人間表現相談室	18	0.8%	1.4%
人間環境学科	社会環境	86	4.0%	6.5%
	生活環境	41	1.9%	3.1%
	自然環境	71	3.3%	5.3%
	数理情報	98	4.6%	7.4%
その他	発達支援	3	0.1%	0.2%
	サイエンスカフェ	1	0.0%	0.1%
計		2,128	100.0%	159.6%

## 2. オープンキャンパスに対する評価

### 1) 開催時期

開催時期に対する評価は、89.5%の回答者が「適当である」としており、再考してほしいと考えている人は3.2%(42名)であった。回答者の約9割がオープンキャンパスの開催時期は適当であると感じていることが示され、概ね満足しているといえる(図7)。再考してほしい場合の時期の希望(36名)は7月が52.8%(19名)、10月が13.9%(5名)であった。



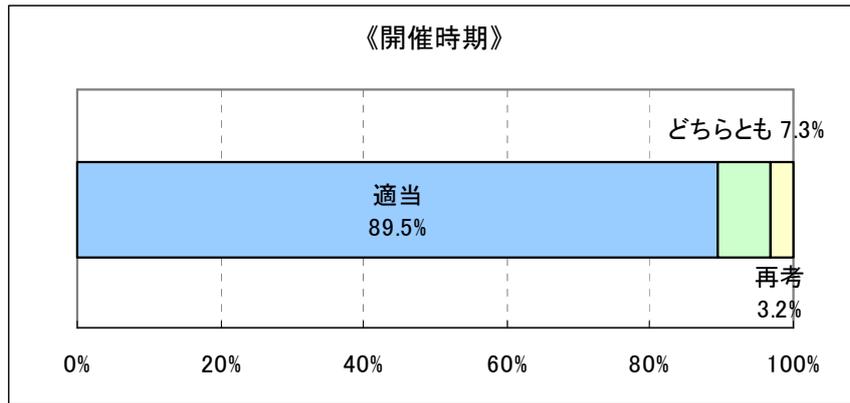


図7 開催時期 (n=1,296)

## 2) 開催時間

開催時間に対する評価は、83.1%(1,064 名)の回答者が「適当である」と考えており、再考してほしいと考えている人は7.0%(90名)であった。再考してほしい場合の開催時間は午前が67.9%(57名)、終日が28.6%(24名)であった。(図8)。

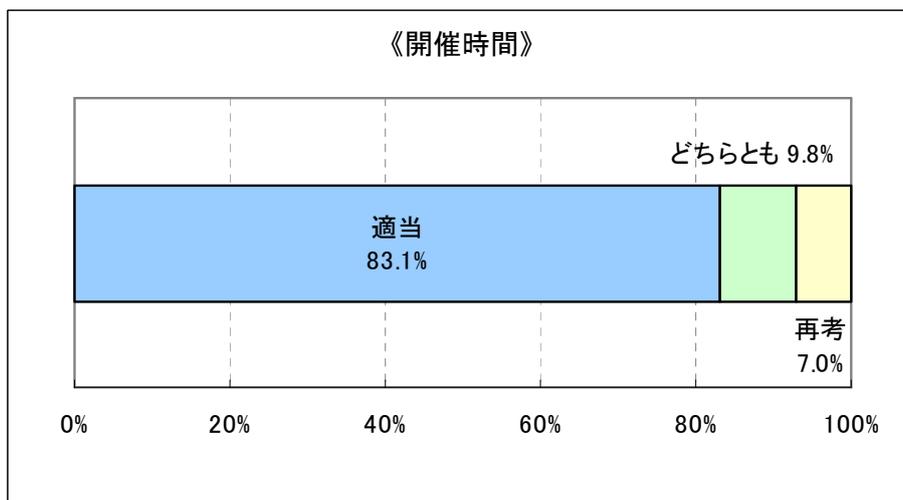
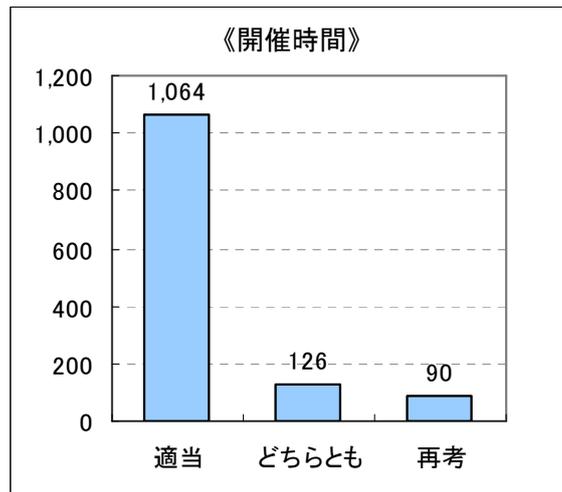


図8 開催時間 (n=1,280)

### 3) 開催回数

開催回数に対する評価は、64.5%(774名)の回答者が「2回がよい」と考えており、「1回でよい」と考える回答者は28.3%(339名)であった。(図9)。3回以上開催してほしいという回答者は87名、17.3%であった。そのうち具体的な回数を記入した者は10名で、3回が8名、4回が2名であった。

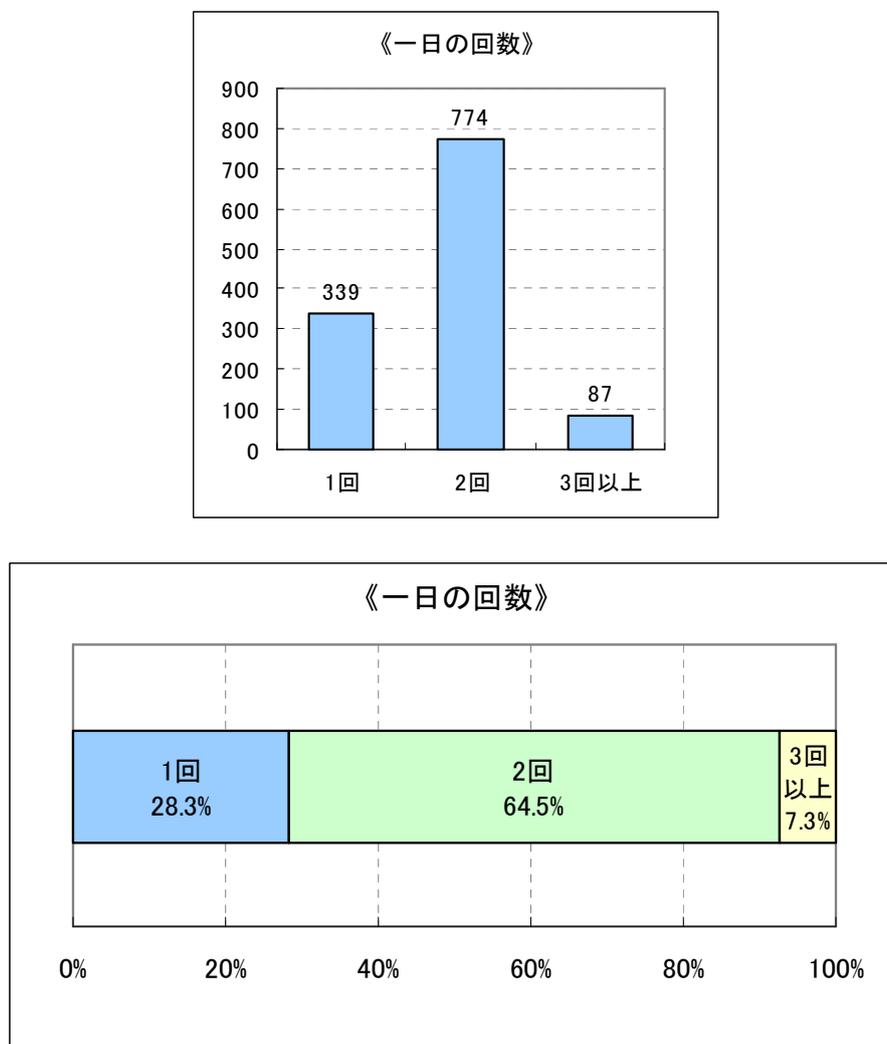


図9 開催回数 (n=1,200)

### 3.オープンキャンパスの企画内容に対する評価

#### 1) 配布資料

配布資料について全体で見ると(図10), 99%の参加者が「満足」(73.6%)及び「まあ満足」(25.4%)と回答している。

さらに、学科別およびコース企画別に配布資料に対する評価をそれぞれ図11および図12に示した。すべての学科において約7割以上が「満足した」と評価しており、「まあ満足した」まで入れるといずれの学科もほとんどの参加者がほぼ満足したと考えられる。

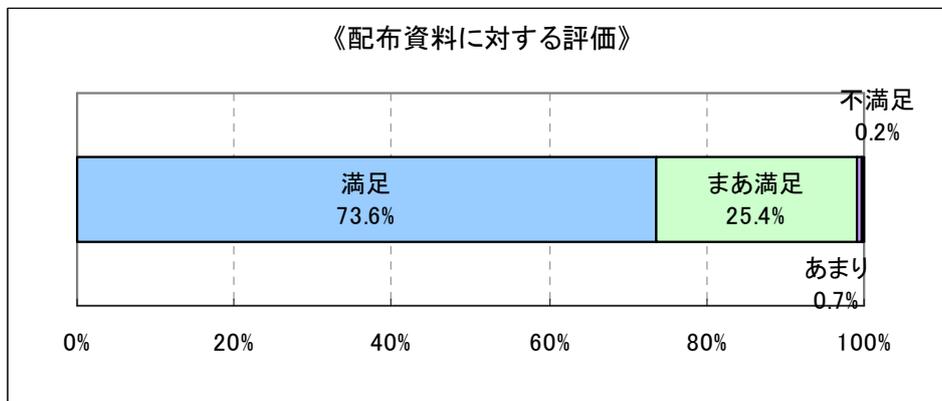
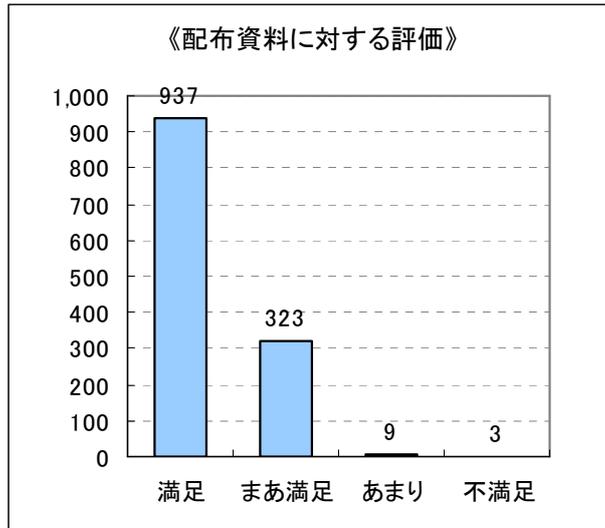


図10 配布資料(n=1,479)

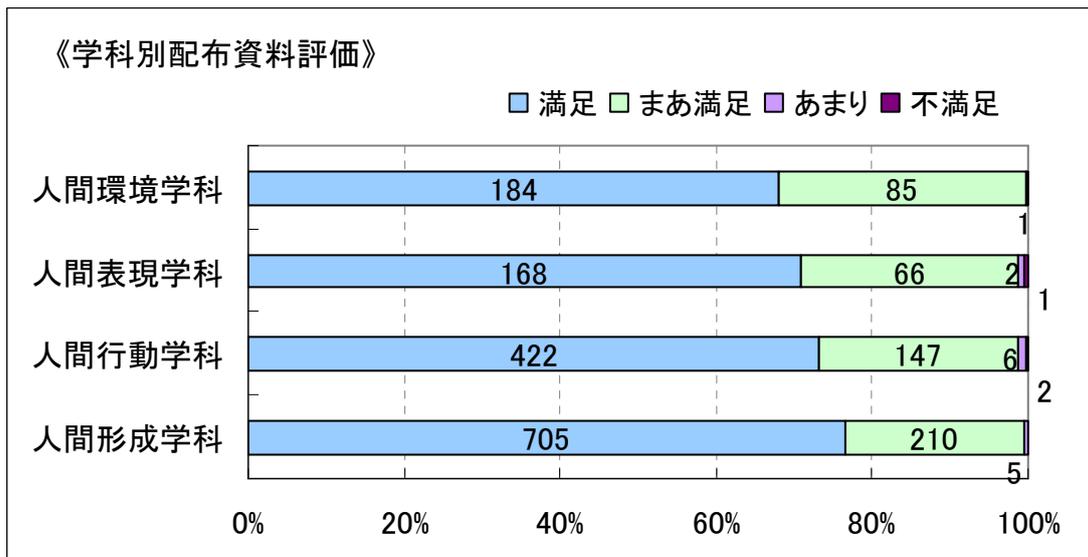


図11 配布資料に対する学科別評価 (図内の数値は人数)

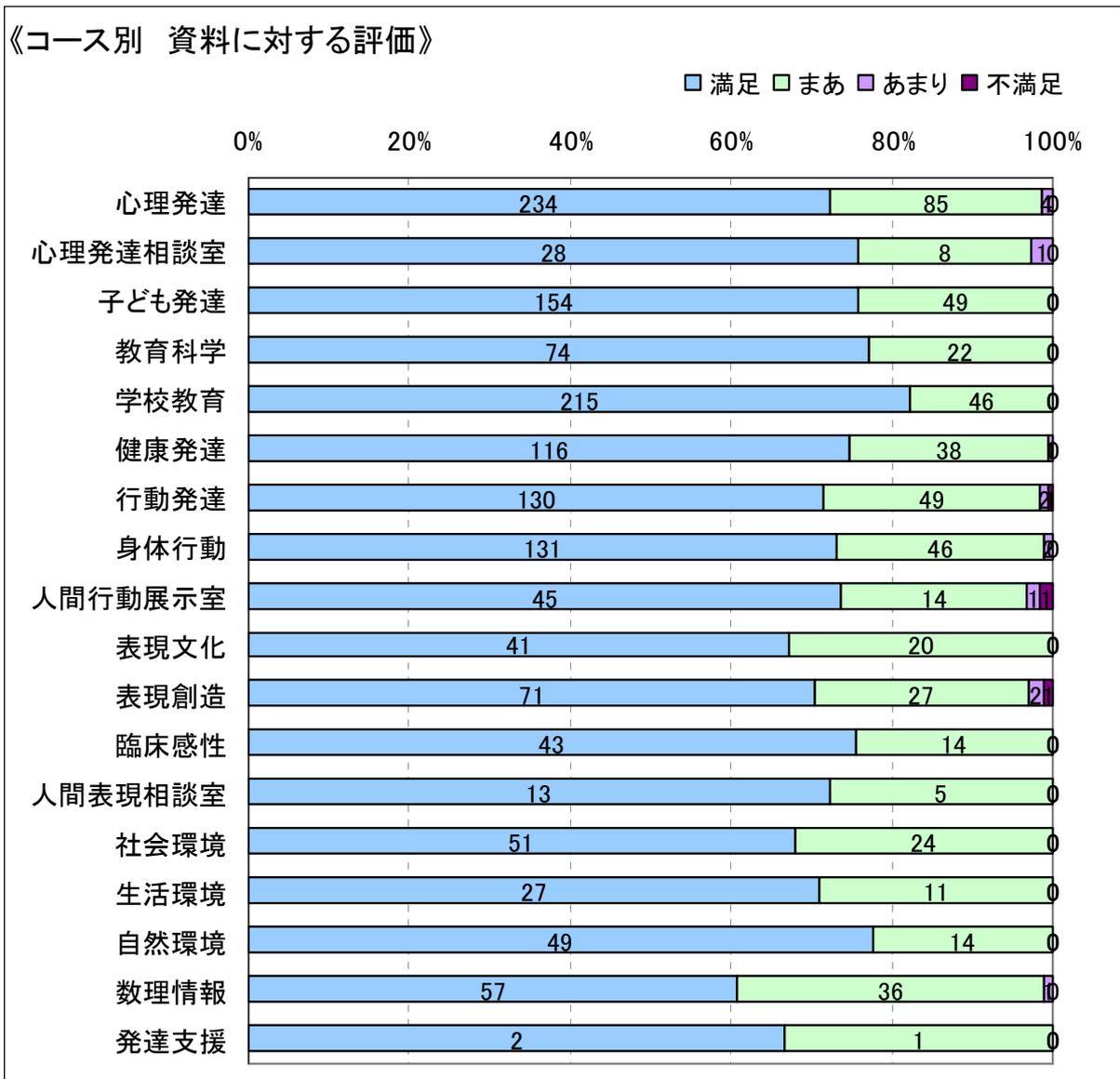


図 12 コース企画別にみた配布資料に対する評価(図内の数値は人数)

## 2) 企画内容

企画内容に対する評価を全体としてみると(図 13), 全体の 6 割以上が満足し, 「まあ満足した」と評価したケースも入れると, 96.5%の回答者が満足と評価している。

企画内容に対する評価を学科別にみると(図 14), 人間形成学科と人間表現学科では 6 割以上の回答者が「満足した」と評価しており, 人間行動学科と人間環境学科では約 5 割強が「満足した」と評価した。すべての学科において「まあ満足した」と回答した者まで含めると, 95%以上がほぼ満足したと評価している。

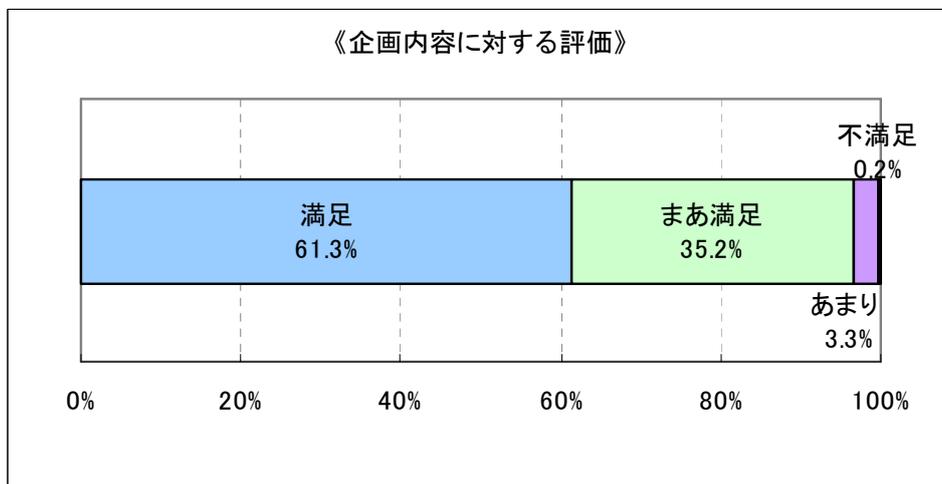
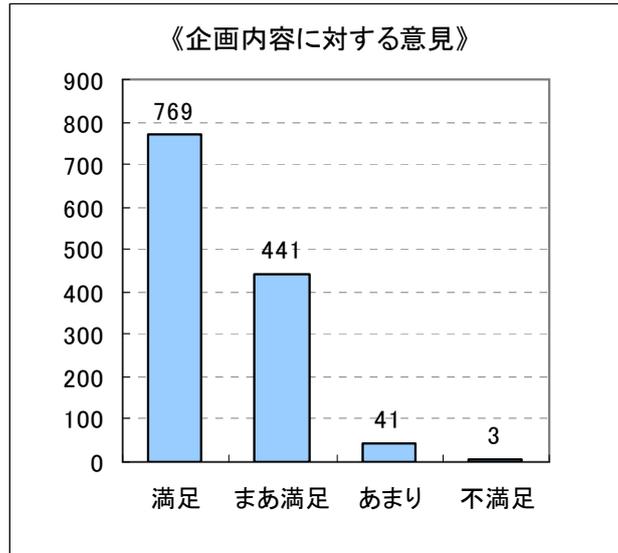


図13 企画内容に対する評価 (n=1,254)

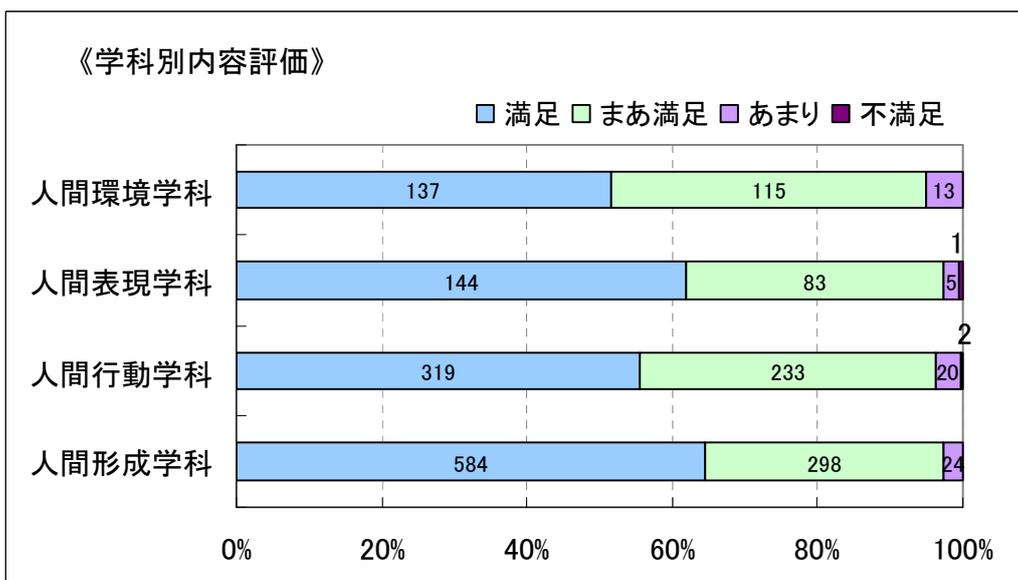


図 14 学科別企画内容評価(図内の数値は人数)

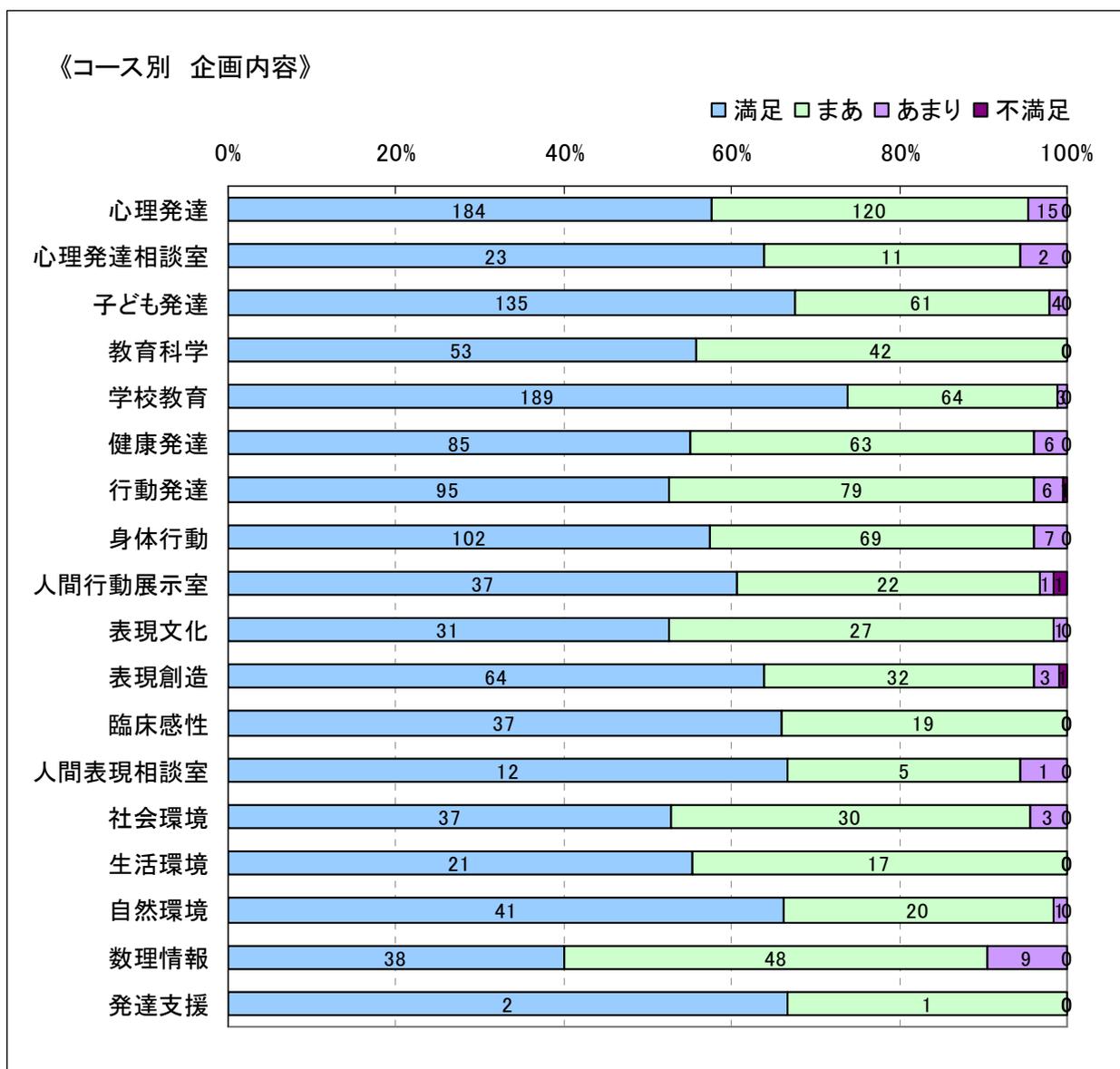


図15 企画内容に対するコース別評価(図内の数値は人数)

コース企画に対する評価をコース別にみると(図15), 学生による模擬授業を行ったコースや, 学相談室や展示室など, 在学生がかかわった企画に対して高い満足評価を得ている。

### 3) 総合評価

総合評価を全体でみると(図16), 「満足した」が 65.7%, 「まあ満足した」32.6%で, あわせて 98.3%の回答者が満足したと評価している。

また, 学科ごとでみると(図17), すべての学科において 6割以上の回答者が「満足した」と評価し, 「まあ満足した」まで含めると, 98%以上の回答者が満足したと評価している。特に, 人間形成学科においては, 「満足した」回答した参加者が 65%を上回る高い割合を示している。

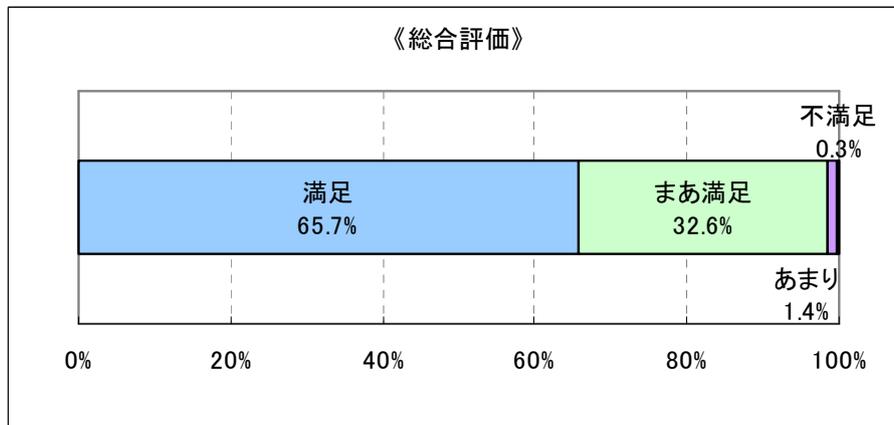
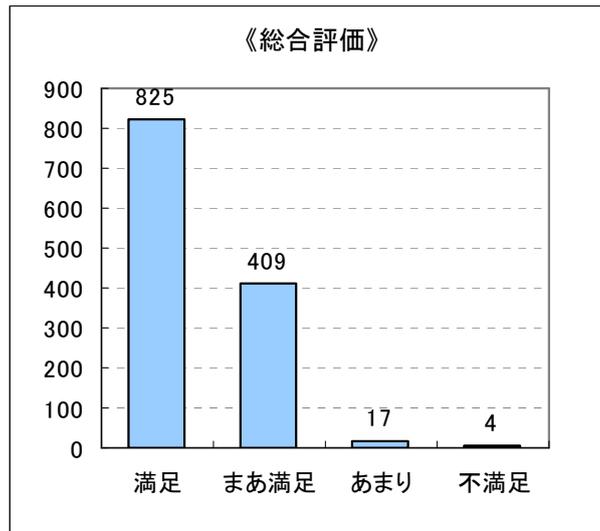


図16 総合評価

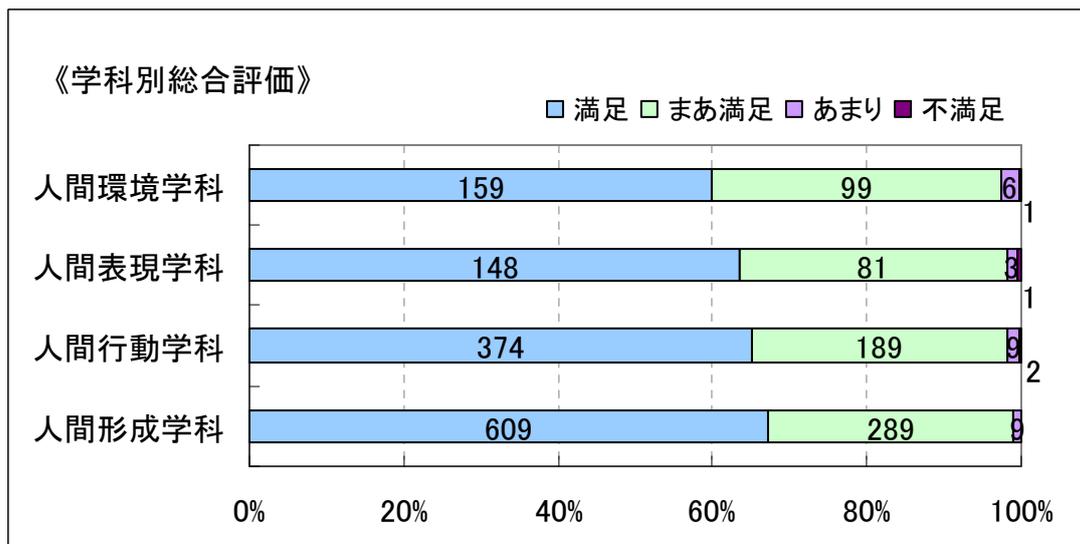


図 17 学科別総合評価 (n=1,983) (図内の数値は人数)

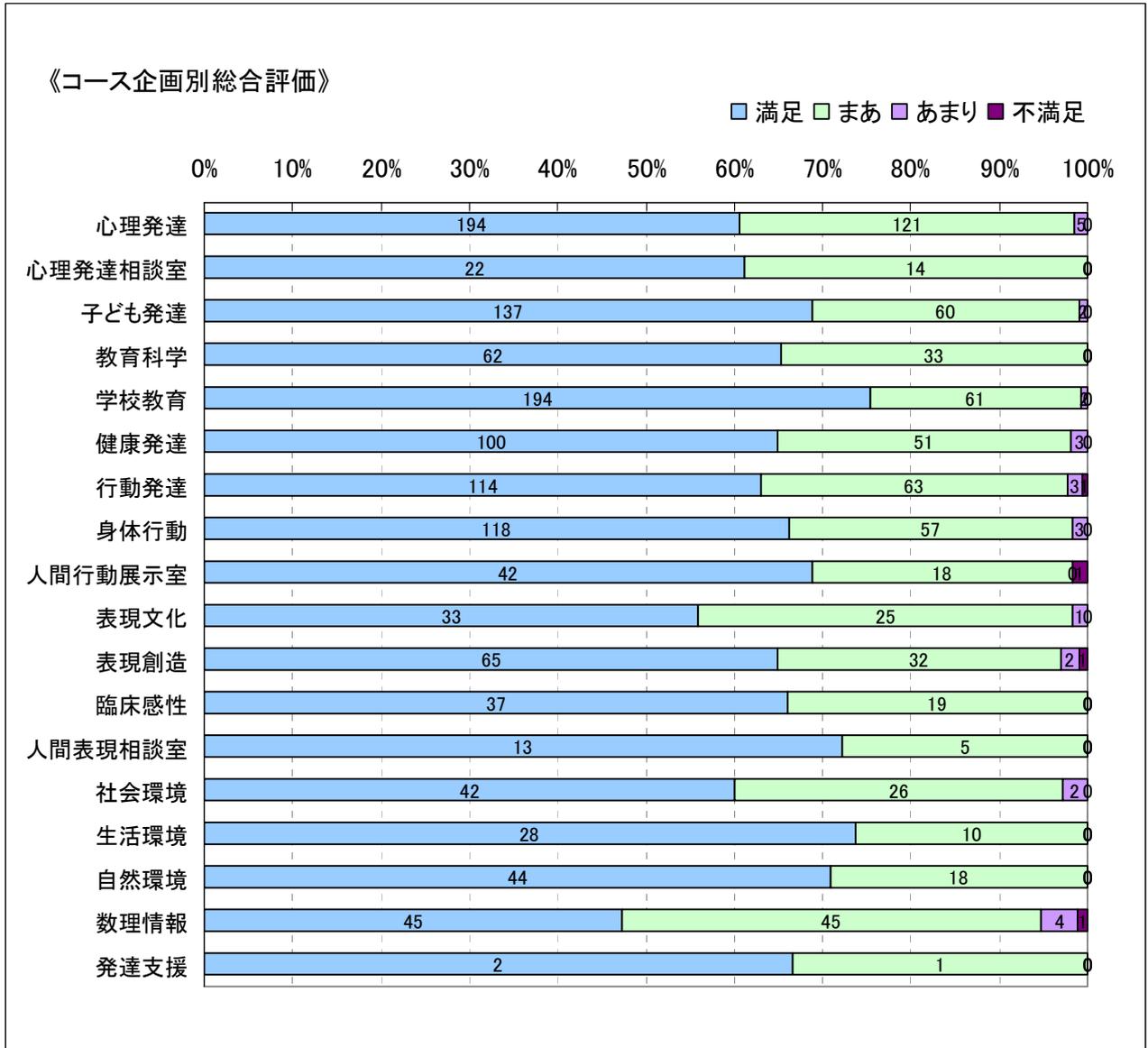


図18 コース別総合評価(図内の数値は人数)

コース企画別に総合評価をみると(図18), 模擬授業, 在学生の参加, 研究室ツアーなどを行ったコースの満足度が比較的高いことがうかがえる。

#### 4. 学生パンフレット(「発達・発掘・Books」)に対する評価

学生作成パンフレットについて, およそ 50%が「面白い」, 45%が「参考になった」と評価している(図19)。

この質問項目では, ひとつしか選択できなかったにもかかわらず, 「面白い」と「参考になった」の両方に丸をつけているケースが多数あり, 処理上そのようなケースは除外したので, 実際には上記の数値よりもさらに多くの参加者から面白い, 参考になったという評価を得ていると考えられる。

学科別にみると(図20),すべての学科のおよそ2人に1人の参加者が「おもしろかった」と感じており,また,「参考になった」と答えた参加者もすべての学科で4割以上を占めていた.

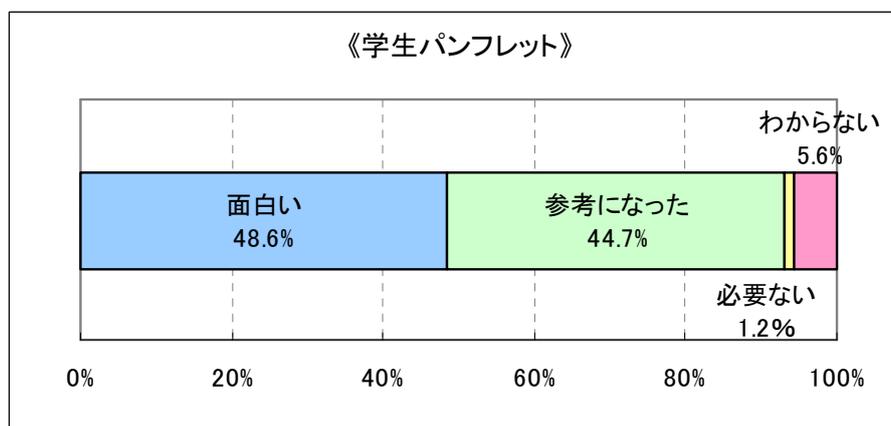
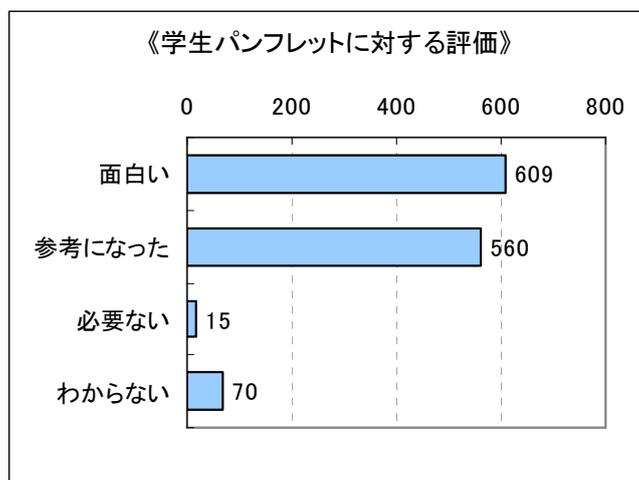


図19 学生パンフレットに対する評価(n=1,254)

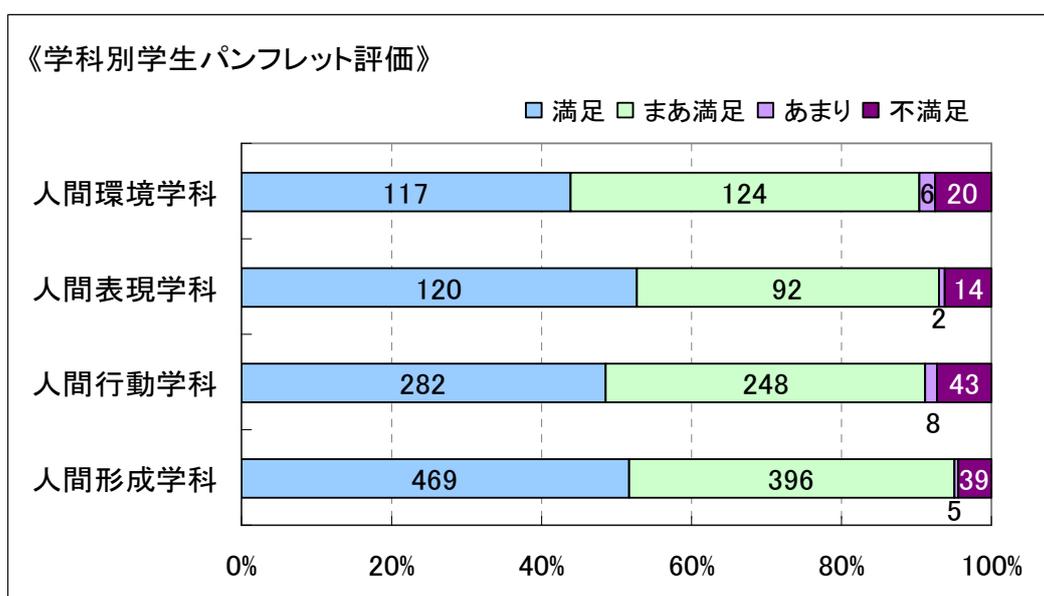


図20 学科別学生パンフレットに対する評価 (n=1,989)(図内の数値は人数)

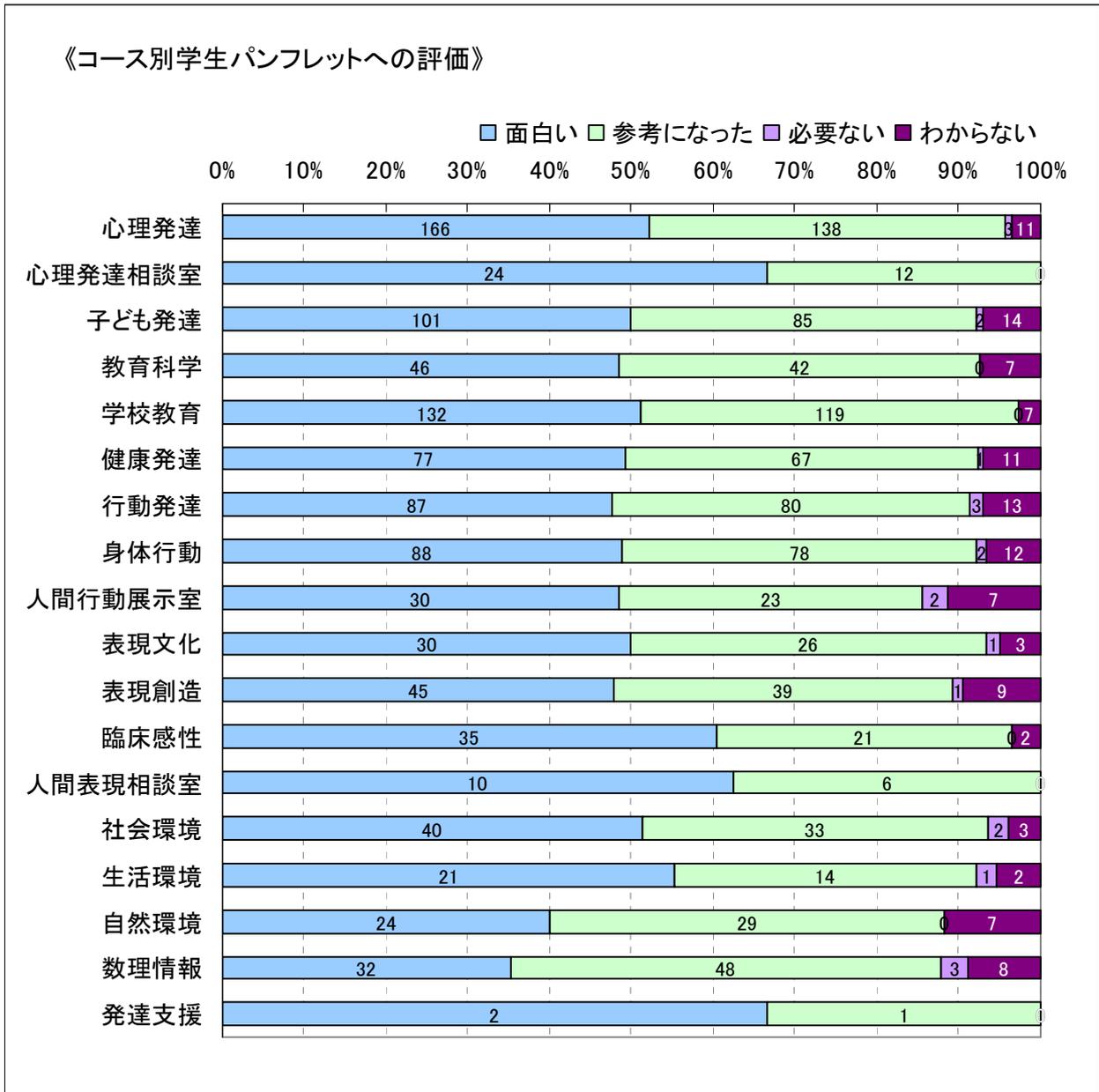


図21 コース企画別にみた学生パンフレットに対する評価(図内の数値は人数)

### 5. 発達科学部に対する入学意志

オープンキャンパスに参加してからの発達科学部に対する入学意志を全体としてみると、46%が「ますます思った」と入学意志を強めていたといえる(図22)。

学科別にみると、特に人間形成学科では半数以上の回答者が「ますます思った」という傾向がみられた(図23)が、人間環境学科では「ますます思った」回答者が4割であった。

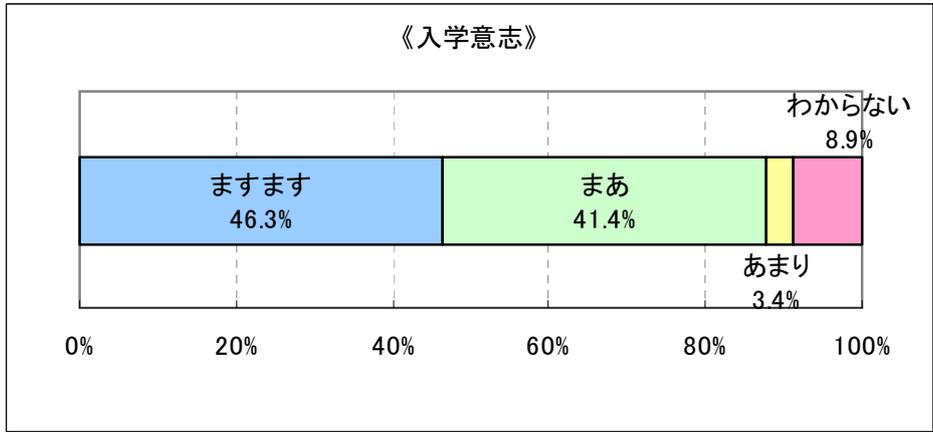
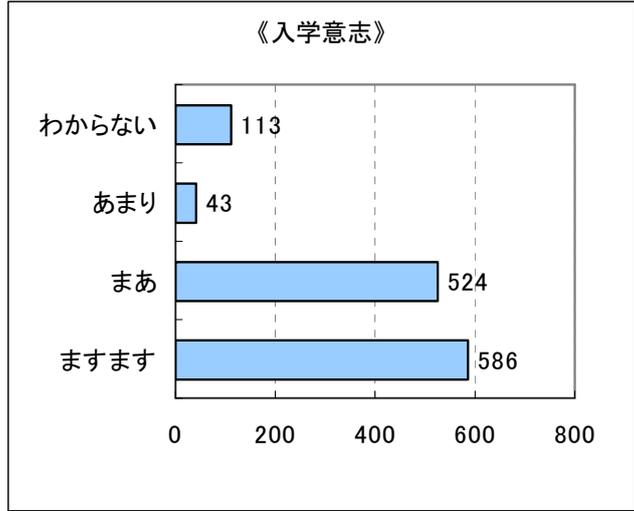


図22 入学意志 (n=1,266)

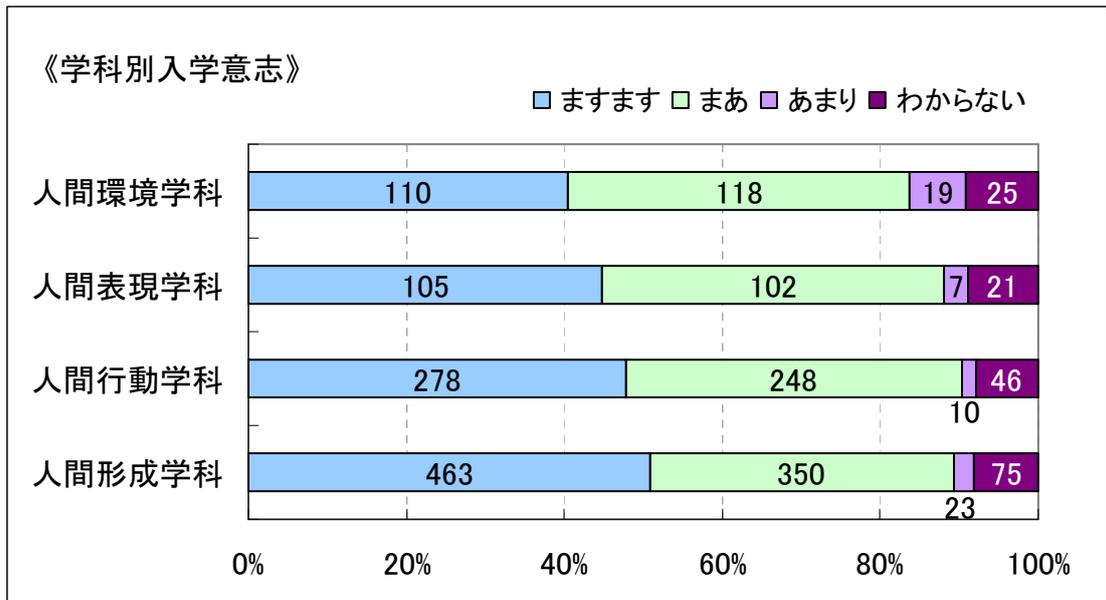


図23 学科別入学意志

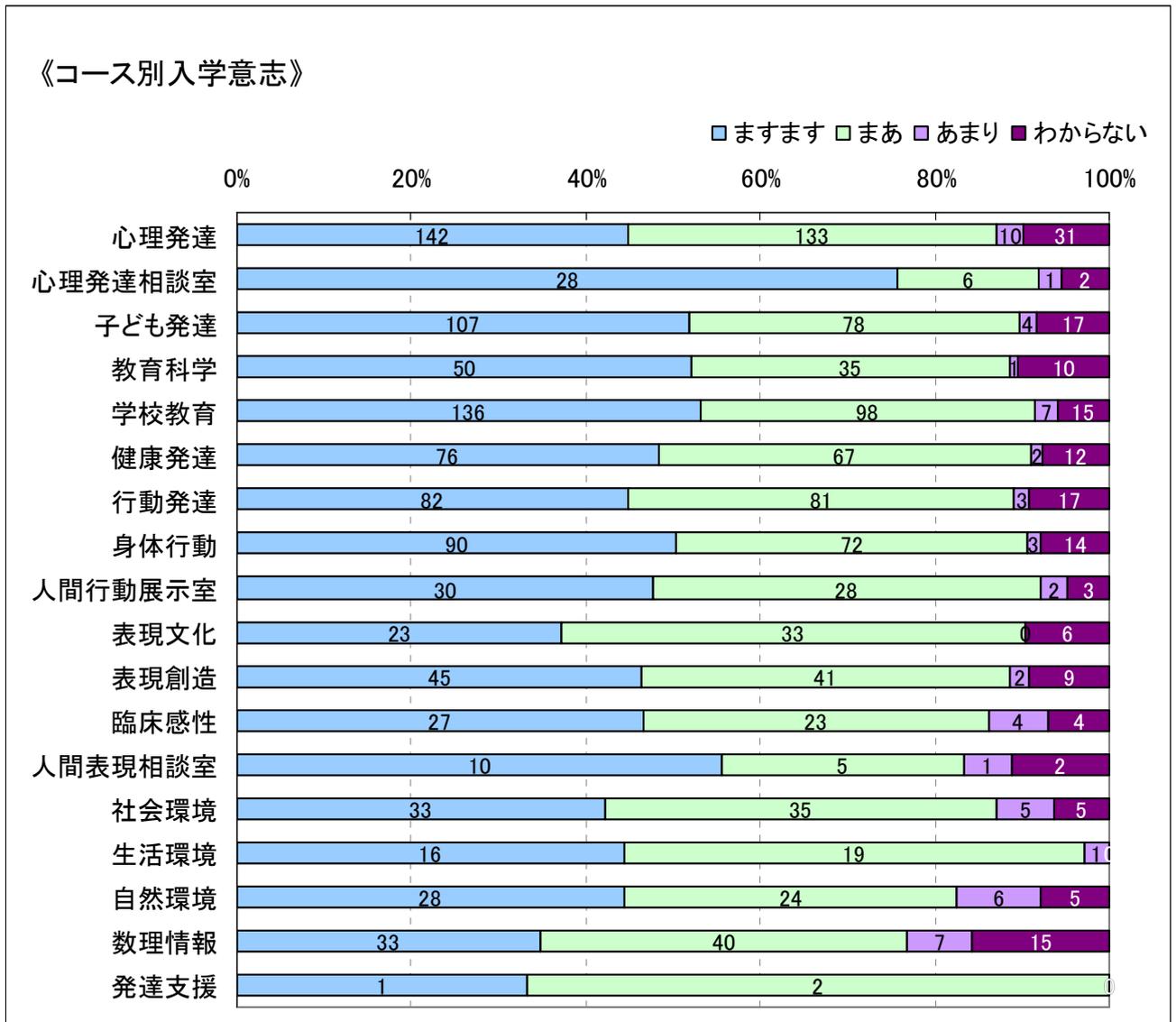


図24 コース企画別にみた入学意志(図内の数値は人数)

## 6.その他

### 1) 発達科学部について知りたいこと

発達科学部について知りたいことは、圧倒的に学生のキャンパスライフであり、その次は入試情報、ついで、カリキュラムや教員・学生の研究であった。(図25)

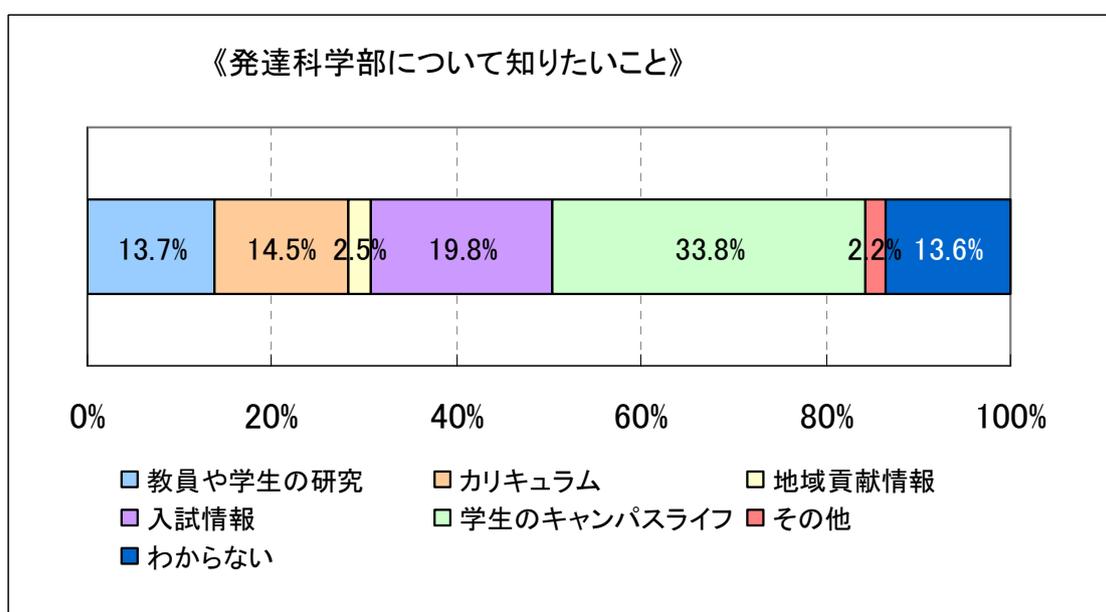
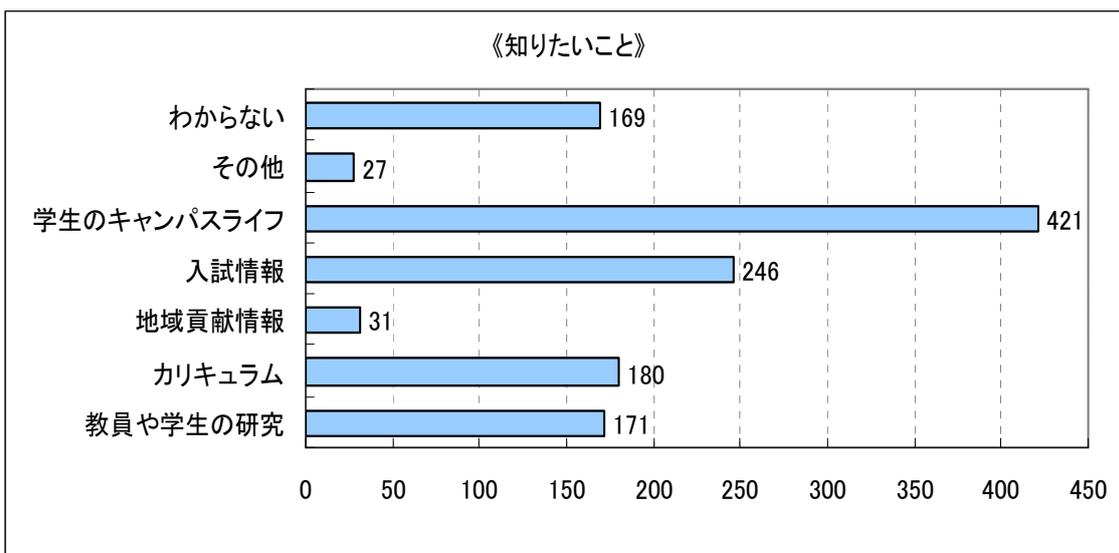


図25 発達科学部について知りたいこと

## 2) 自由記述

オープンキャンパスに対する意見や感想が多数寄せられたので、そのすべての記述を《Appendix I》として学科別に掲載した。

## 3) 性別および学年別に見たオープンキャンパスに対する各種評価

参考までに、性別および学年別にみたオープンキャンパスに対する評価(総合評価, 企画内容, 学生パンフレット, 入学意志)について、《Appendix II》として図26～33に示した。

## 4) 参考までにオープンキャンパス2010のプログラム概要を《Appendix III》に示した。

## ま と め

1. アンケート回答者は 7 割が女性で、高校生 2 年生が最も多く、3 年生、1 年生の順であった。
2. 高校所在地は 37 都道府県にまたがったが、兵庫県と大阪府からの参加が特に多く、2 府県で 60%を超えた。
3. オープンキャンパスに関する情報は、6 割以上の方がホームページから入手していた。  
参加する際には友人とともに来学するケースが最も多く、約 5 割であった。
4. オープンキャンパス開催の時期・時間・回数については、適当であるという評価が多かった。
5. 企画内容や資料についても、満足評価が 95%以上を占めた。
6. 入学意志については、オープンキャンパスに参加してますます入学したいと思ったケースが 50%弱、まあ思ったが約 40%であり、オープンキャンパス参加によって入学意志が強められたと考えられる。
7. 発達科学部について知りたいことは、学生のキャンパスライフが最も多く、ついで入試情報という結果であった。